

甲佐町議会だより



清流

第172号

令和2年(2020)2月17日発行

発行 甲佐町議会

発行責任者 議長 宮川 安明

12月定例会



人事案件・条例案件・令和元年度各会計補正予算②～③	④
そこが知りたいQ&A	④
一般質問7人「ここが聞きたい」	⑤～⑪
町民の声	⑫

緑町区で行われたどんどや
(1月12日
中甲橋グリーンパーク)

令和元年第4回(12月)定例会

令和元年第4回定例会は、12月13日に開会し、17日まで5日間の審議を行った。

議案審議においては、「交流拠点施設」「防災公園」「農業振興地域整備促進協議会」の設置に関する条例の制定、職員の給与等に関する条例の一部改正、令和元年度各会計補正予算など町長提出の17案件を慎重に審議し、すべて原案のとおり可決・適任と答申した。

一般質問には7議員が補助金制度、農業の振興、有害鳥獣対策、防災対策、資格取得支援、国土強靱化地域計画、ごみ処理問題等について活発な議論を展開した。

審議結果一覧

区分	議案名	審議結果
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について	適任と答申
議案第56号	熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更について	可決
議案第57号	甲佐町交流拠点施設の設置、管理及び使用料に関する条例の制定について	可決
議案第58号	甲佐地区防災公園条例の制定について	可決
議案第59号	成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	可決
議案第60号	甲佐町農業振興地域整備促進協議会設置条例の制定について	可決
議案第61号	甲佐町附属機関設置条例の制定について	可決
議案第62号	甲佐町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第63号	甲佐町一般職の職員の給与に関する条例及び甲佐町一般職の任期付職員採用等に関する条例一部を改正する条例の制定について	可決
議案第64号	町長等の給料及び旅費に関する条例及び甲佐町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可決 (反対2)
議案第65号	訴えの提起について	可決
議案第66号	工事請負契約の変更について(芝原地区液状化対策工事)	可決
議案第67号	工事請負契約の変更について(甲佐地区都市公園整備工事)	可決
議案第68号	令和元年度甲佐町一般会計補正予算(第4号)	可決
議案第69号	令和元年度甲佐町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	可決
議案第70号	令和元年度甲佐町介護保険特別会計補正予算(第3号)	可決
議案第71号	令和元年度甲佐町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可決

審議した主な議案等の内容は次のとおり。

人事関係

人権擁護委員候補者の推薦

人権擁護委員の沼田峰子氏（北原区）が令和2年3月31日で任期満了となることから、次期委員候補者として、同氏を推薦することに対し適任者であると答申することとした。

条例関係

甲佐町交流拠点の設置、管理及び使用料に関する条例の制定

現在整備が進んでいる、甲佐町交流拠点施設（旧西村民俗資料館及び旧井戸江峡キャンプ場）の整備に伴い、条例の制定が必要となったもの。施設の名称を「古民家交流拠点施設」及び「井戸江峡交流拠点施設」とした。



井戸江峡交流拠点施設



甲佐地区防災公園

甲佐地区防災公園条例の制定

整備が終了した、甲佐地区防災公園の管理等について、基本的なことを定めたもの。

予算関係

令和元年度甲佐町一般会計補正予算（第4号）

今回の補正予算により2945万5千円を増額し、総額81億4206万3千円となった。

今回の補正予算では、町営住宅立替工事費5495万円、教科書改訂に伴う費用1327万3千円、保育料無償化に伴う費用334万2千円等を追加し、国の交付金の減額に伴い町道改良舗装工事費1億1140万円等の減額を行ったもの。

令和元年度甲佐町介護保険特別会計補正予算（第3号）

今回の補正予算により255万4千円を増額し、総額16億559万9千円となった。

今回の補正予算では、施設介護サービス等給付費2580万円等の増額、居宅介護サービス等給付費1470万円、地域密着型介護サービス等給付費1210万円等の減額を行ったもの。

令和元年度甲佐町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）

今回の補正予算により1万1千円を増額し、総額1億5265万1千円となった。

契約関係

工事請負契約の変更（2件）

甲佐地区都市公園整備工事においては、パーゴラ、照明灯、収納ベンチ等の増及び舗装工事の内容変更に伴い、1万7993円を減額し、契約総額5986万3687円とするもの。

芝原地区液状化対策工

そこが 知りたい

Q & A

12月定例会 質疑から

緑川河川敷樹木伐採

Q 松ヶ崎周辺の緑川河川敷の樹木を伐採されたが、その経緯は。

A 緑川河川敷の樹木伐採については、河川管理者である国土交通省に毎年要望を行っており、その結果、今回国において松ヶ崎周辺の河川敷地の樹木伐採について対応いただいたもの。

Q 景観的にも河川環境的にも非常に良くなったことから、今後も継続して行っていたきたいが。

A 町内には、まだまだ河川敷に雑木が生えているなど、景観のみならず防災上からも懸念される箇所が多々ある。今後とも国に対し継続して強く要望していきたい。



松ヶ崎周辺の緑川河川敷



中甲橋グリーンパーク前の中州



伐開作業が行われている田口橋周辺（乙女側・1月30日撮影）



担い手確保経営強化支援事業

Q 今年度の国の補正予算で担い手確保経営強化支援事業が創設された。農機具導入等について助成が受けられるという事業内容だが、周知を含めた町の取組みの方向性は。

A この事業は、今年度の経済対策補正予算

で創設されている。助成の対象者が法人、認定農業者、それから個人でも可ということだが、採択条件は非常に厳しいと伺っている。周知に関しては今のところまだ行っていないが、今後JAや農業法人、認定農業者の方々に広く周知しながら、利用申し込みがあれば、事業採択に向けて町でも対応していきたい。



県の補助事業により導入されたコンバイン

一般質問

学校給食パンに県産小麦粉を

学校教育課長 県学校給食会と協議したい



井上農政課長

問 日本では認められていない農薬グリホサートが輸入小麦の9割から検出されている。将来ある子ども達の健康を守るためにも学校給食のパンには県産や国産の小麦粉への変更はできないのか。

荒田学校教育課長

外国産小麦粉は政府が安全性を確認して買い付けていると聞いており、残留農薬も基準以下であり問題ないと考える。

しかし、原材料の意向については、現場の声を聞きながら対応したいという県学校給食会の回答があつており、今後も協議をしていきたい。



町農業の現状と今後の方向性は

問 日本の農業従事者の減少と高齢化など、農業と農山村の崩壊の危機が広がっている。食料自給率は今や37%、先進国の中で最低の水準になっている。更にTTP、日欧EPA、日米FTAなど農産物の輸入自由化を際限なく拡大、その対策として、国は農業の競争力強化のため大規模化を進めている。そういう中で、甲佐町の農業の現状はどうか。今後の方向性と施策は。

井上農政課長

近年、農業従事者の高齢化や後継者不足による農地の遊休化が懸念されている。それを防ぎ、生産性向上を図るため、農地を適切に管理する担い手を作る必要がある。認定農業者、農事組合、法人等組織への支援と新規就農者への新たな支援制度の検討を行っている。

新規就農者と定住促進に支援は

問 甲佐町の農家戸数は激減している。農業をやりたい人を増やす必要がある。町外からも含め新規就農者の拡大と支援拡充の方策と定住促進に町独自の支援策はあるのか。

井上農政課長

旧青年就農給付金制度が始まった平成24年度から今年度までに16名が就農されている。そのうちの1名が町外からの移住者となっている。

近年、首都圏から地方への移住やUターンなどにより、ふるさと新規就農者も増加している。町として、農業研修機会の提供、地元農家との連携支援、生活面では空き家バンクの活用など、移住新規就農者への定住を各方面から支援していきたい。

「家族農業の10年」について町の考えと対応はどうか。

井上農政課長

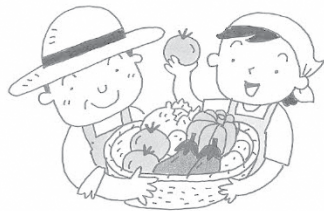
国連の「家族農業の10年」は、加盟国及び関係機関に対し、食糧安全保障整備と貧困飢餓撲滅に大きな役割を果たしている家族農業への施策の推進などを求めるもの。

町においても農業経営体は、ほぼ家族農業の集合体。対応としては、経営所得安定対策交付金や日本型直接払い制度など、国の施策を有効に活用している。

その他に

「学習指導要領の改訂による教育の方向性について」の質問があつた。

国連「家族農業の10年」町の考えと対応は



問 国連は2017年総会で、「家族農業の10年」を採択した。持続可能な社会のためには家族農業は欠かせないとして、10年間の家族農業支援の取組を求めている。この



こちらから全質問を視聴いただけます。

一般質問

道路整備5カ年計画の見直しと進捗状況

町長 緊急車両が通らない里道も再度精査する



荒田 博 議員

問 この5カ年での進捗状況は。

志戸岡建設課長

骨格道路4路線中、松ヶ崎妙見谷線、山出県道線が完了。大町塔ノ木線は現在終点側の交差点改良工事に着手している。未着手は、(仮称)乙女橋御船線で御船町の復興計画の整備路線として計画されており、事業実施に向け具体的な協議を進めていきたい。

生活道路は8路線あり、世持麻生原線は完了、吉田県道線が今年度中完了予定。また、上揚井戸江線、仁田子古川線は令和2年度完了予定で、施工中の西寒野打越線、迫線



再評価対象の下知行幸野線

早川下糸田線は交付金の配分次第ではあるが令和3年度から令和4年度完了予定。未着手の下知行幸野線は再評価を行う。

問 今後新たな路線の検討は。

志戸岡建設課長

各行政区に対し10月要望路線のアンケートを取っている。その中で、新規路線について検討中である。

問 町道で緊急車両が通らない場所はないのか。

志戸岡建設課長

緊急車両が通らない幅員は2メートル以下の部分で、5路線ほどある。

奥名町長

町道ではなくても里道において、狭あい事業で取り組んで幅員を広げた実例もある。そういう場所以ついて再度精査し、道路整備計画の中で協議して行きたい。

有害鳥獣対策

問 有害鳥獣の被害が拡大していると聞いています。最近の状況は。

井上農政課長

熊本地震以降個体数が増加しており、生息域が平坦地へ拡大している。その影響で被害面積、被害額ともに増加傾向である。

問 有害鳥獣捕獲駆除の取り組み状況は。

井上農政課長

駆除隊による猪駆除の数は増えている。平成30年度実績が116頭、令和元年度、現在時点で226頭と倍程度捕獲している。箱罾やくくり罾による罾班での捕獲数が増えている状況である。町で箱罾を昨年5基購入し、中横田で組織されている実習的な駆除組織に貸し出しをしている。

国土強靱化地域計画

問 国土強靱化計画の現在の状況は。

北野企画課長

現在ハードからソフトまで全庁的な計画の策定を進めている。地震・台風・豪雨などによる大被害がいつ発生してもおかしくないという認識のもと、人的・物的被害に対して「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかな回復をするしなやかさ」を持った、国土強靱化の実現に向けた施策を計画的に推進することを目的に、甲佐町国土強靱化計画を本年度中に策定することとしている。



こちらから全質問を視聴いただけます。

緑川水系整備の加速化は

町長 国土交通省に強く要望していく



佐野 安春 議員

奥名町長

緑川整備計画の加速化は厳しい。ただ、危険箇所や急いで整備が必要な場所は国交省と町は共通認識を持っているので、あらゆる機会に要望活動を行っている。今後も強く要望を行っていききたい。

議員 厳しい状況と思うが、町民は緑川堤防の安全について心配している。沿線自治体とも協力し、要望を強めて頂きたい。

問 国交省の「緑川水系整備計画」は30年間で整備するといわれている。町では、平成28年6月豪雨の大きな災害があった。全国で毎年起こる大規模自然災害を考えれば、是非とも整備期間を加速化し、沿線地域住民の安心・安全を国の力で早期に図って頂きたいと考えるが如何か。

志戸岡建設課長

加速化については、整備期間の短縮はできないが、洪水の実績や国の財政状況、自然環境の変化や河道の状況等に基づいて国も適時見直しを行うとされている。



上豊内付近の緑川

内水対策の具体化は

問 内水対策については、町総合計画において、内

水対策実施計画を作成し国、県へ要望を行うとあるが、具体的な対策はできているのか。

志戸岡建設課長

内水対策の実施計画については、平成29年度に調査を行った。これまでに流域別の対策や効果を検証し、対策案を取りまとめた。

短期で出来る対策として、河川の土砂撤去、側溝の管理など維持管理を行っている。中長期で考えている事業については、国、県、それぞれの河川管理者との協議が必要であり、事業の進め方も協議している。

「総合運動公園」洪水時の浸水は大丈夫か

問 平成19年7月の洪水で、グラウンドゴルフ場や星の川団地周辺が出水し、多くの家屋に浸水の被害があった。洪水時に「総合運動公園」が浸水



整備中の「総合運動公園」

し、被害の可能性はある。洪水での浸水被害は避けられないものか。

志戸岡建設課長

「総合運動公園」は河川敷に整備され、緑川の洪水時に浸水することが心配される。平成19年に中甲橋水位が4・6mの氾濫危険水位に達した時に越水した。中甲橋の氾濫危険水位に達した時に浸水の可能性を想定している。

いざという時には施設撤去等の災害防止支援活動に関する協定を町建設業協会と結んで、施設の撤去活動を行い、被害を最小限に抑えられるよう

な態勢を整えている。

国へ温暖化防止策定の要請を

問 異常気象の大きな原因が地球温暖化であることは明らか。異常気象による大きな被害を受けている日本こそ、温暖化防止に力を注ぐ必要がある。国への積極的な行動を働きかける必要があると思う。町長の考えは。

奥名町長

国の方でしっかりと対応策を考えて、温暖化防止対策を自治体に示すことが一番いいと考える。

その他に

洪水ハザードマップの見直しなどの質問があった。



こちらから全質問を視聴いただけます。

一般質問

資格取得支援について

町長 町全体の共通課題としての支援を検討



田中 孝義 議員

問 現在町での鳥獣害による農作物の被害に対し、駆除に当たられている猟友会の高齢化、後継者不足など聞いている。駆除をするにも銃免許、罫猟の免許等の資格が必要である。町で活躍される猟友会の後継者育成のために資格取得の支援を考えるが如何か。

井上農政課長

有害鳥獣駆除に関する資格支援だが、現在上益地域域林業木材産業振興協議会で、資格取得に関する経費の一部助成が行われており助成額としては、銃猟免許で9千円、わな猟免許で6千円となっている。実際の免許

取得にかかる費用は、初心者講習会費用、狩猟免許の申請手数料及び医師の診断書費用、狩猟手数料や登録免許税、さらに猟友会費等が必要になり約4万円から5万円かかる見込みで個人負担は、大きくなっている。

有害鳥獣対策は、喫緊の最重要課題と考えている。駆除隊とのヒアリングや他自治体との参考事例の検討などあらゆる可能性を模索し、有害鳥獣駆除隊の隊員減少に歯止めをかけるため、免許取得助成を含めた有害鳥獣対策の有効策の検討を行いたいと考えている。

問 雇用対策の中で、就職を希望する際の支援は、どのようなものがあるのか、また、八代市では、就業資格取得支援助成制度が行われている。状況等の説明を求む。



北野企画課長

公共職業安定所による支援、県では、ひとり親家庭に対する職業支援がある。現在、県内市町村において失業により離職された方などが就職を希望する際の資格等の取得に対する助成制度として、八代市が取り組まれている。対象となる資格取得講座は、厚生大臣が指定する1年以内に終了する教育訓練講座であり申請されている主な資格は、大型免許、医療事務、介護職員初任者研修、コンピュータ資格関連で半額を助成し上限額は、5万円までとし他の制度に該当しない方が対象である。

問 町で就職を希望される方への資格支援を行い、町の活性化、また子育て支援として町の総合戦略に組み込んで頂きたい。地方創生交付金を利用すれば費用も2分の1になると思う。手厚い町の支援があることが町に住み続ける幸せ感につながると思ひ提案する。町長の見解をお願いする。

北野企画課長

まち・ひと・しごと創生甲佐町総合戦略は、本年度が期限となっているが町総合計画と同期する形で令和3年度から新たな計画を策定していくこととしてしている。新たな政策等については、次期計画を策定していく中で検討する。

奥名町長

地方創生の中での検討も考えられないこともないが今後国は、就職氷河期世代に対する雇用に対する支援が強化されてい

く状況にあるという認識を持つている。就職支援に直接的に結びつかないかもしれないが狩猟免許の資格取得は、協議会を通じて行われており、防災士の資格を取ってもらう支援も引きつづき町でやっていきたいと考えている。

まず国、県で実施されていない町全体に共通課題としての支援を第1に考え提案の件は、国の雇用対策をにらみながら今後の検討課題にさせて頂きたい。



こちらから全質問を視聴いただけます。

町版国土強靱化計画と堤防の安全性について

町長 堤防の整備、内水対策等を念頭に
計画策定に臨む



議員 甲斐 良二

問 本町の堤防の整備計画とその進捗状況は。

志戸岡建設課長

国が管理する緑川水系全体で完成堤防の進捗率は57%で、そのうち甲佐町管内の13kmについては公表されておらず不明である。

問 本町の堤防の定期点検はなされているか。

志戸岡建設課長

管理者である国土交通省により週2回の河川巡視をされている。また、洪水時や地震時には基準以上で巡視されている。また、年1回緑川重要水防箇所巡視を国、県、

町合同で行い、情報を共有している。

問 令和元年10月12日に

関東東北を直撃し、71河川140カ所にも及ぶ堤防が決壊した台風19号では、あわせて土砂災害も発生し、その3割は自治体が指定している「警戒区域」以外で発生した。本町には、土砂災害警戒区域と特別警戒区域はそれぞれ何カ所あるか。

志戸岡建設課長

土砂災害警戒区域が232カ所、そのうちの223カ所が土砂災害特別警戒区域となっている。

問 堤防決壊の恐れがある洪水時の避難指示等の基準は。

佐々木くらし安全推進室長

甲佐町地域防災計画書に示されており、気象予測や河川巡視等からの情報をもとに総合的に判断する。避難準備、避難勧告、避難指示の3つに分かれており、避難場所に避難することが必ずしも適切ではなく、事態が切迫した状況に応じて、自宅の2階への避難を促すことがある。

報をもとに総合的に判断する。避難準備、避難勧告、避難指示の3つに分かれており、避難場所に避難することが必ずしも適切ではなく、事態が切迫した状況に応じて、自宅の2階への避難を促すことがある。

奥名町長

国においては、国土強靱化関連予算を配分する場合には、重点化、要件化、見える化を計画に明記することが条件とされている。

指摘された、堤防の整備、堤防が無いことの問題、さらには内水対策等を頭に入れながら、計画策定に臨みたいと思う。

佐々木くらし安全推進室長

町にも一級河川の緑川が流れており、堤防決壊等を想定した訓練は必要と考えている。水害を想定した訓練についても、今後検討したい。

問 町版国土強靱化計画

策定において、堤防の未整備区間の早期整備と現在の堤防の強化を盛り込むべきと思うが、町長の思いは。



堤防整備が待たれる緑川左岸（船津地区）



こちらから全質問を
視聴いただけます。

一般質問

県道三本松甲佐線は地域発展の生命線

町長 県土木部へ町の考えを伝える



鳴瀬 美善 議員

問 県道三本松甲佐線の整備状況については、未だ車の離合にも支障を来す箇所が数多くある。現在までの工事の進捗と、今後整備を進める上で堤防改修やその他事業との調整は。

志戸岡建設課長

路線全体の延長は14kmで、整備率は、43・8%、甲佐町は45・9%、美里町は41・8%である。今年度の事業要望として、上揚団地付近の狭小部分の改修を含め、8項目の内4項目が甲佐町の要望箇所である。

井上農政課長

上揚地区については、令和2年度採択に向け、圃場整備事業を計画している。現在まで、県道改修事業等との調整は行っていないが、必要が生じた場合は調整を図る。



改良が待たれる三本松甲佐線（上揚地区）

問 現在、災害復旧工事を始め、宮内地区社会教育センター裏の防災工事など、様々な形で整備がされているが、今回質問した県道三本松甲佐線は、宮内地区にとって生活道路であるとともに、地域発展の生命線であると考えられる。今後の地域振興策は。

奥名町長

宮内地区の振興対策については、地方創生の観点から井戸江峡キャンプ場の整備を、上揚住宅の建て替え工事については、人口減少対策として、また、水道事業については、私の政策目標にも掲げている事業である。質問の三本松甲佐線については、狭あいな道路事情もあり、井戸江峡橋を利用したところで、県土木部へも町の考えを伝えていく。

災害時のごみの受入れや施設間での広域連携は

問 熊本地震を始め、今回の関東や東北地方を襲った台風や水害等により、大量に発生した災害ごみの状況を例とし、現在進められている新施設の建設時期や近隣市町、あるいは、各施設間での広域的な連携の考えは。

橋本環境衛生課長

上益城郡内のごみ処理

施設は、現在3施設が稼働しているが、いずれも老朽化が進み、更新の必要性がある。

新施設の建設に向け、上益城5町共同で令和7年度の稼働を目標に取り組んできたが、熊本地震の発生により、各町の財政状況が厳しくなったことから、当初計画より複数年遅れる見込みである。



熊本地震発生当時の震災ごみ

奥名町長

熊本地震の教訓から、災害等の緊急事態発生時には、さまざまな場面において、自治体間あるいは自治体と民間、関係団体、との連携が必要であることから、協定締結を広げていく。

問 被災者への支援とその周知は。

橋本環境衛生課長

自然災害や火災については証明書発行により、



こちらから全質問を視聴いただけます。

放課後子ども教室「まつやま塾」

船津区 森田 義勝

私は、長年やってきた事業を三年前に譲渡し一線から離れ、その後まつやま塾に参加するようになりました。

現在、塾生は一年生から六年生まで24名で社会教育課と一緒に一年間を通し活動しています。その活動内容は、どこにもない非常に危険な小刀やのこ、鎌などを使っての宝箱作りや干し柿作り、ミニ門松作りにソーメン流し、その他色々チャレンジしています。

畑には大根、里いも、からいも、じゃがいも等他にも色々植え付けていて、水田には、米作りをしています。秋には、昔ながらの作業で稲刈り、かけ干し、足ふみ脱穀、更に唐箕にて選別し、これらは我々でも経験したことがない仕事です。

昔のコメ作りは大変だったと知ると同時に、子どもたちが生きた勉強を通じてコメ一粒一粒を大事にしてくれると信じています。個性が強い子どもが多い中、自分自身も成長させられています。

残りの人生地域のため、将来ある子どもたちのために体力の続く限り頑張っていこうと決意しています。

上益城郡町議会議員研修会に

参加して

11月8日に益城町で開催された上益城郡町議会議員研修会に、議員12名で参加してきた。

講演会では、熊本国府高等学校硬式野球部監督の齋藤健次郎氏が講師として招かれ、「免許更新・親の目更新」これまでの生徒指導・野球指導をとおして〜という演題に基づき講演が行われた。子育てにおける親の役割の重要性等を分かりやすく、またユーモアを交えながらご講義いただき、子育て・教育環境の整備を検討していくうえで非常に参考になるものであった。

その後は親善スポーツ大会としてグラウンドゴルフ大会が開催された。各町のチーム戦として行われたが、甲佐町議会は見事優勝を勝ち取ることができた。チームワークで得た結果であり、このチームワークを今後の議会運営にも生かしていきたい。



町民の皆様の議会傍聴をお待ちしています。

お気軽にお越しください。

※令和2年第1回(3月)定例会は、3月6日開会の予定です。

編集後記

議員改選から一年を迎えようとしています。

5名の新人議員も少しづつではありますが、議会に参加できてきていることを実感として感じられるようになりました。

私たちは、町民の皆様方から頂きましたご意見や要望など、それぞれが個々の視点や考え方に立ち、皆様の思いが行政の施策や運営により良き形で反映できる様、行政機能のチェック機関として議会活動を活性化してまいりますので、皆様方のご提案をお待ち致します。(鳴瀬美善)

議会広報編集特別委員会

委員長 甲斐 高士
副委員長 宮本 修治
委員 佐野 安春
委員 森田 精子
委員 鳴瀬 美善
委員 田中 孝義
委員 甲斐 良二

